

12月定例会で審議した議案の結果

Table with columns for '議案の件名', '議決結果', and '会派ごとの賛否' (賛成/反対/賛成人数/会派人数) for various bills and budget items.

市民：市民クラブ まほ：まほろば 新政：新政ちちぶ 公明：公明党 無会派：会派に属さない議員 ※議長は人数に含まれていない。

○：賛成 ×：反対 ○/○：賛成人数/会派人数

一般質問

一般質問は、市政に関わる市の考えを聞いたり、議員が政策を提案したりするものです。各議員の写真の下にある二次元コードから、インターネット録画中継をご覧いただけます。

Table of general questions with columns for question number, name, and page number. Includes illustrations of a hot drink and a cat.

ストーマ装具給付金の引き上げを



出浦 章恵



問 ストーマ装具を必要とする人は、各市町村へ申請し、給付金が支給されている。給付金の基準額は自治体によって引き上げることができると聞いている。物価高騰で装具も一部値上がりしている。引き上げができないか。

答 ストーマ装具とは、人工肛門や人工膀胱を設けて排泄を行っている障がい者や脳原性運動機能障害等により排泄または排便の意思表示が困難な障がい者等が使用する畜便袋、畜尿袋や紙おむつのことで、購入費の一部を市が負担している。市の給付金の限度額は、蓄便袋を1か月8600円、蓄尿袋を1万1300円、紙おむつを1万2千円と定めている。自己負担額は、住民税非課税世帯の方は1割負担のため1か月あたり蓄便袋8600円、蓄尿袋1万1300円、紙おむつは12000円で、住民税非課税世帯の方の自己負担はない。秩父地域4町の給付限度額は、蓄便袋、蓄尿袋は、横瀬町、皆野町、長瀬町は市と同額、小鹿野町は蓄便袋が1万3000円、蓄尿袋が1万2360円、紙おむつは4町とも市と同額の1万2千円。また、

県内の自治体では、蓄便袋8858円、蓄尿袋1万1639円、紙おむつ1万2千円としているところが多い状況。4年度の給付決定者は140人。他市と同じ給付限度額にした場合の見込み額は、4年度実績を基に試算したところ、差額は約31万円。財政担当と協議をしていきたいと考える。



ストーマ装具（畜便袋）

◎国保税水準統一で市はどうなるか
◎現行保険証の存続を

医療的ケア児の日中支援の充実



公明党 本橋 貢



問 医療的ケア児の日中一時支援は、3度目の訴えとなり課題が一つ一つ改善されてきた。その後の進捗状況と今後の取り組みは。

答 医療的ケア児の支援は重要な課題として取り組んできた。事業所と協議を重ね、支援学校への迎えが可能となり、4月から医療的ケア児3人が日中一時支援を利用している。卒業後の利用へ向けて、支援学校高等部の医療的ケア児2人が、夏休み期間中に生活介護サービスを利用した。受け入れ事業所を増やせるよう、医療的ケア行為ができる人材確保のための研修に係る補助制度、医療的ケア児を受け入れる設備整備にかかる補助制度、基準該当介護事業所が医療的ケア児を受け入れた際の報酬単価に対する補助制度の検討を行っている。

「防げるがん」の対策

問 特定健康診査でのピロリ菌検査導入の考えは。

答 特定健康診査としては実施していないが、感染の有無を調べる検査と胃粘膜の萎縮度を調べる検査を試行的に実施した。6年度も

継続し、5年度に受診できなかった方も対象として実施する。

不登校予防へ睡眠教育

問 生活習慣の改善を図る睡眠教育についての考えは。

答 児童生徒の健全な発達、脳や心身の健康と密着に係る睡眠の確保は重要な生活課題である。質の高い睡眠や規則正しい生活習慣の重要性についてまとめたリーフレットを作成し市内全小中学校に配布した。児童生徒への指導および啓発活動を行っている。



睡眠教育として小中学生に配布された「早寝・早起き・朝ごはん」

産後ドゥーラの活用

問 産後ドゥーラの活用は。

答 市では、産後支援として、母親の休息と育児や健康について助産師などの専門職が支援を行う産後ケア事業、保健師等による訪問・相談があり、日常的な家事や授乳、おむつ交換、兄弟の子守などの育児支援については、研修を受けたボランティア会員が行う産後・サポートセンターがある。産後ドゥーラの活用は難しい。

●ご当地ナンバー導入

問 ご当地ナンバーについて、定住自立圏域で導入の検討は。

答 現在の熊谷ナンバーに代わり、例えば「秩父」等、新たな地域名の表示を行うご当地ナンバーの導入は、国土交通省の要綱により、地域の自動車台数や地域住民の合意形成等について要件が定められている。4年度の公募の際、定住自立圏域の4町に対し、導入の打診をしたが、慎重な自治体もあり、公募申請を見送った。今後、周辺町村と情報共有・連携し、導入の機運が高まったら導入に向けた調整を積極的に行っていきたい。

●重点支援地方交付金

問 重点支援地方交付金の活用は。

答 低所得世帯支援策として住民税非課税世帯1世帯あたり7万円を給付、その他は庁内プロジェクトチームで検討を進めている。

●免許返納時のタクシー券配布

問 運転免許返納時に1度限りで交付される公共交通利用券を毎年継続して配布できないか。

答 公共交通利用券は免許返納した方に公共交通を利用するきっかけとするために交付している。



公明党 おおくぼ すすむ 大久保 進

秩父市合併20年に向けて

問 7年4月1日で合併20年を迎えるが、これまでの検証は。

答 合併に際し、新市が進むべき方向および行財政運営を定めた新市のマスタープランとしての役割を果たす「新市まちづくり計画」を策定し、事業を行ってきた。計画を策定するにあたり、住民アンケートを実施した結果の中で、合併に最も期待することは、「経費の削減、道路整備・公共施設の整備で生活の利便性向上」、「市町村の良さを生かした一体的な整備による魅力的なまちづくりが期待できる」というものだった。アンケート結果を踏まえ、新市まちづくり計画には、新市建設の基本方針を実現するため、117の主要事業が定められ、合併10年後の平成26年度末の時点で111の事業を実施、現在では113の事業を実施した。残り4事業は、社会情勢の変化や費用対効果の面から未実施という状況である。合併のメリットである合併特例債は、総額約241億円を活用し、教育施設や道路等の整備を財政上有利に実施できたことは新市建設の上で大きな成果であった。

市民クラブ あさうみ ただし 浅海 忠



合併時の新市キャッチフレーズ
「まち輝き むら際立ち 森と水のちからほとばしる
助けあい 温もりのまち ちちぶ」

◎市立病院
◎地域公共交通の取り組み



全国統一の図柄入りナンバー

新政ちちぶ政策提言より 市立病院の将来のあり方



新政ちちぶ
清野 和彦
きよの かずひこ



問 秩父地域における市立病院の将来のあり方について、どのように検討が進められていくことが望ましいと副市長は考えるか。

答 老朽化や設備不良といったことがあるが、先進事例も参考に検討を進めたい。市立病院は地域の中核病院として、また公立病院として救急医療や感染症対策、不採算医療、災害医療などを担う地域に欠くことのできない医療機関である。施設や設備の老朽化で十分な医療を提供できない、市民の期待に応えられないことは大変な問題である。建て替えには多くの時間と費用がかかる。最低でも5、6年はかかるが、新年度予算に必要な額を計上し、なるべく早く検討を始めたい。検討にあたっては庁内だけでは不可能であるので、専門家や有識者に参画いただき、助言をいただきながら進めていきたい。

●避難所体験キャンプ

問 防災・減災の意識を高めるために、市として、避難所を体験する事業が、どのように実施されることが望ましいと考えるか。

答 避難所体験キャンプは、防災意識の向上や避難所運営の円滑化につながる有効な事例であり、子供を持つ若者世代への防災訓練への参加のハードルを下げる効果も期待できる。各町会や各団体などから相談があれば、市としてできる限り協力していきたい。



避難所体験キャンプの様子
(5年8月(一社)秩父青年会議所主催)

◎ 新政ちちぶ政策提言より・運動免許の自主返納者を支援する事業の拡充
◎ 子どもたちを守るホットスポット・パトロール

市役所内ならびに 関連組織の横連携

問 市役所内組織の横断的協力強化と、各種団体との連携強化は。

答 横断的協力のできる組織体制の整備は最も肝要であり、組織改編にあたっての大前提として念頭に置いている。また、各部署と団体間の連携を再確認するとともに、市民に市の施策をもっと知っていただけるような情報の伝達方策について現在検討している。

●新政ちちぶ政策提言より

問 不妊に悩む方たちへの心のケアなど支援体制強化は。

答 当事者の気持ちに寄り添い、ニーズを知り、必要とされている事業の方向性を探っている。今後設置される「女性の健康」に特化した国立高度専門医療研究センターの業務が遂行された後に提供される情報や啓発媒体等も活用し、不妊に悩む方の心のケアも含めた体制構築に努めたい。

問 今後の市の農業をどうしていくか、ビジョンの策定は。

答 現行の農業を守りつつ更なる高みを目指すため、さまざまな方面から取り組みを模索している。既に策定している農業振興の計画

新政ちちぶ
小松 穂波
こまつ ほなみ



と一体となった夢のある農業ビジョンの策定を検討していく。

●安心安全な市民生活

問 防犯ブザーなどの音を聞く機会を設ける啓発の実施と、モンベル製のランドセル「わんパック」が小学校入学準備品購入補助金の対象から外れた理由は。

答 防犯ブザーの音を実際に聞いていただく機会を増やし安全確保に努める。また、モンベル社製のランドセルはリュックサックの類と認識しているため対象外とした。



小学校入学準備品購入補助金の対象外となった製品

市民の声の傾向と対策



かなさき まさゆき
金崎 昌之



問 市民の声の具体的な把握によって市民の市政への参画や協働が生まれ、市政を推進する大きな力になる。現在、各地で開催中の「ふれあい懇談会」の実施状況は。

答 「ふれあい懇談会」はこれまで45町会で実施し、今後も開催予定。いただいた意見や要望は、道路、有害鳥獣対策、子育て・高齢者支援、観光誘客、医療環境の整備など多岐にわたっており、対応可能なものはすぐに着手している。今後も、いただいた意見・要望はできる限り市政運営に活用していきたい。

● 教員の多忙と子どもたち

問 教員の多忙化が叫ばれて久しい中、教員志望者の減少も指摘されている。教員の多忙化の実態と働き方改革の進み具合は。

答 時間外在校等時間が月45時間超の教員割合は県平均を下回っているが、多忙化の実態は依然存在する。働き方改革の取り組みでは、教員業務支援員を全小中学校に配置する等で負担軽減に努めている。**問** 増加傾向にある不登校やいじめの対策は。

答 未然防止・早期発見・解決に向け、教育相談の充実、スクールソーシャルワーカー等による支援、「いじめ不登校対策推進委員会」による講義等を実施している。

● 市立図書館の充実

問 秩父地域に書店の数が少なくなっている現在、図書館の果たす役割は大きい。実態と充実は。

答 年間の貸出利用者数は6万人前後。年間を通じて各種の取り組みを行い、多くの市民の方に親しまれ、信頼される図書館を目指す。



各地で行われている『ふれあい懇談会』

身近に頼れる人がいない 子育て支援の現状は



くろさわ しゅんじ
黒澤 秀之



問 昨今の核家族化の進展と共働き夫婦の増加によって、幼少期のお子さんをもつ世帯は支援を必要としている。市としての対応は。

答 定住自立圏事業であるファミリースポーツセンター事業、市単独事業である産前産後サポートセンター事業、緊急サポートセンター事業、3つの産前産後・育児支援事業を実施している。主な内容は、いずれも有償ボランティアによる子育て支援であり、ファミリースポーツセンター事業は、子どもの預かりや送迎に関すること。産前産後サポートセンター事業は、母子健康手帳の交付を受けてから生後6か月までの妊産婦の家事支援や子育てサポートに関すること。緊急サポートセンター事業は、ファミリースポーツセンター事業では対応できない急な預かりや送迎、病児・病後児の預かりを行っている。いずれの事業も事前登録を必要とする会員制となっている。

問 本事業を利用するにあたり、保育所や学童入所要件にある保護者の就労に関する要件はあるのか。**答** 就労の有無に関する要件はない。

問 3つの事業に共通して言えることは、依頼する側と支援する側の信頼関係がもっとも重要になる。利用者の安心感を確保するために、どのようなことを行っているのか。

答 協力会員には、9科目25時間、子どもの心や生活、小児の病気や看護、救急講習など多くの基礎について学んでいただくことになる。身元確認としては、運転免許証等の提示を求めている。また、事前にも子どもの状態や依頼内容を確認し合う、顔合わせを実施してからの利用開始となっている。



3つの産前産後・育児支援事業

高齢者のごみ出し支援策

問 集積所まで、ごみを運ぶことが困難な高齢者が増えている。戸別に収集するなどの、何らかの支援ができないか。

答 今後一層の高齢化により、指摘された課題が増えることは認識している。ごみ収集は広域市町村圏組合が行っているため、今後調整を図りながら、ごみ出し支援としてどのような手法が有効なのか、協議・研究を進めていく。

●空き家対策

問 これまでの「秩父市空き家等対策計画」が終了し、法律改正等により新たな計画が策定される予定だが、その進捗状況は。

答 空家法の一部改正を受けて、5年度中に新しい対策計画の公表を目指している。今回の改正は、今後も増え続けていくと思われる空家問題を加速度的に解決するためのものと考えており、職員の業務負担軽減や空家の活用・管理に関するノウハウの習熟が期待できると考えている。今後もこの問題には力を入れて取り組んでいく。

●有害鳥獣対策

問 猟友会の会員減少や高齢化問題などに関し、今後どのような対策を行うのか。

答 猟友会は任意団体であり、行政主導で会員を増やすことは難しい。高齢者や少数でも、効果的に捕獲作業ができる捕獲通知システムなどを活用することで、捕獲作業の労力削減を目指す。捕獲作業は、可能な限り各猟友会への業務委託を継続していきたい。



みやがわ ひろし



まほろば 宮川 浩司



ステーション方式のごみ集積所

社会福祉協議会が実施する介護事業

問 近年、国内の多くの社会福祉協議会が訪問介護事業から撤退しているが、市の現状は。

答 当該事業は継続され、民間事業者では対応が困難な中山間地域等への派遣を行い、黒字も計上しているが、訪問介護員の減少と高齢化が進み、新たな介護員の確保が課題になっている。

問 介護員になるための研修を対面式に加えオンラインで実施すれば応募者が増えるのではないか。

答 必要な予算措置を講じて実現に努めるとともに、今後は高齢者等、他の、ヤングケアラーに対する支援も科目に含めたい。

●会計年度任用職員の処遇の改善

問 会計年度任用職員は窓口業務等さまざまな部署で重要な働きをしているが、人数と比率は。

答 5年11月現在、全職員1255人中495人が会計年度任用職員で、比率は39%。全員がパートタイムの雇用である。

問 法改正により6年度から勤勉手当の支給が可能になったが、市でも、期末手当とともに勤

勉手当を支給する予定である。

●第75回全国植樹祭の準備状況

問 県との連携等、準備の状況は。

答 全体に関する計画の策定と運営および式典（5千人程度）の実施は県が担当し、周辺地域の整備と地元向けの広報は市が担当。地域の町村とも連携を進めている。



たかの よしお



まほろば 高野 佳男

秩父市委託事業
令和5年度 秩父市訪問型
生活支援 サービス
災害者研修
訪問による生活援助を行うための基礎知識の取得
2日課 計100名（募集要項）

※研修を修了することにより、「介護士職」「自然生活支援員（介護士）」を行う方
介護職員等特定処遇改善増進法（一七）の適用を受け、給与が向上します。
※この機会に各課の業務知識を身に付けてください。

開催日 令和5年11月9日(木)・14日(水) ※2日課
会場 秩父市歴史文化伝承館
対象者 秩父市在住の方
秩父市内の訪問型生活支援
サービスに就業する意向のある方
定員 20名(先着順)

テレビや雑誌などで見たことのある
「生活支援サービス」の研修生です。
みなさんの業務を支援して
いただきます。

研修申込書 amsh056
お問い合わせ 申込先
秩父市社会福祉協議会 電話 0494-22-1514
〒366-0033 秩父市東町1-13-14 FAX 0494-22-4815
受付時間 10:00~17:15(土・日・祝日)

あなたの支援を待っている人がいます

◎市内小中学校の立地と土地の有効活用

議会報告会・市民の意見を聞く会を開催しました

5年11月5日、「議会報告会・市民の意見を聞く会」を歴史文化伝承館で開催しました。

元年度に開催して以来、新型コロナウイルス感染症の影響により会場での開催を見合わせておりましたが、今回は4年ぶりに会場にて開催することができました。

ご参加いただきました皆様には、貴重なご意見をいただきましたありがとうございます。皆様からのご意見やご提言は、今後の議会運営等に反映させてまいります。

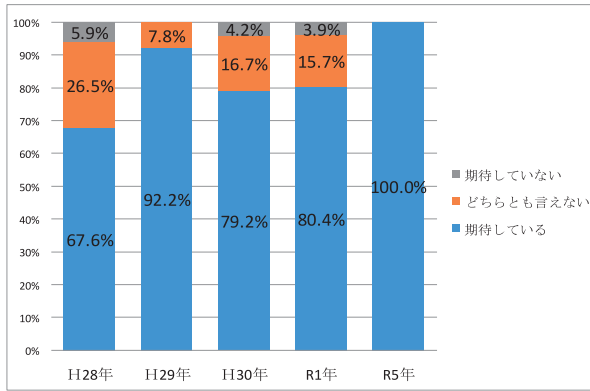
実施報告書、意見・要望の内容等は、ホームページでご覧いただけます。議会事務局までお問い合わせください。



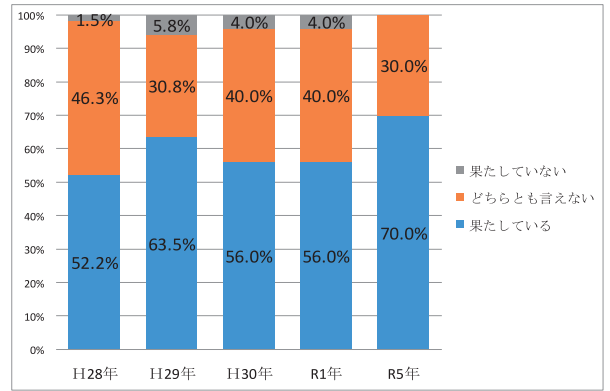
議会報告会

参加者アンケート

議会への期待について



議会の役割について



表紙デザインを変更しました

市民の皆さんに親しまれる議会だよりを目指し、前号までは、市内の保育所(園)や学童保育室の子どもたちの写真を掲載させていただいていました。今月号からは、市内の高校(秩父高校、秩父農工科学高校、秩父特別支援学校高等部)の生徒さんの作品を掲載させていただきます。今後も、よりわかりやすく、手に取っていただける議会だよりを目指してまいります。

3月定例会の予定

Table with 2 columns: 日程 (Date) and 議事 (Agenda). It lists dates from February 20th to March 13th and corresponding council activities like '開会、議案説明', '総務委員会', and '一般質問'.

※各日、午前10時開会予定です。※議場は、本庁舎の4階です。※日程は、定例会初日に正式に決定されるため、都合により変更になる場合があります。

編集後記

12月定例会は、11月21日から秩父夜祭をはさんで23日間開催されました。今年の夜祭は、4年ぶりに通常の開催となり、土曜・日曜開催で天候にも恵まれ、36万8千人のお客様に勇壮な山車、華麗な花火を堪能していただけたと思います。

さて、12月定例会も、活発な議論がなされました。この議会だよりにわかりやすく掲載いたしましたので、多くの市民の皆様にご覧いただき、多くのご意見を期待します。

令和5年度も、議会だよりを4回発行できました。配布にご協力いただいた皆様には、深く感謝申し上げます。本誌が各家庭に届くのは、立春を過ぎる頃となりますが、秩父はまだまだ寒さが続きます。市民の皆様には健康に十分ご留意ください。

編集委員

- 委員長 高野 宏記
副委員長 出野 佳章
委員 高野 佳章, 黒澤 幸之, 坂本 秀之, 清野 昌和, 宮前 彦彦, 高野 忠宏, 浅海 忠宏